

セルクル・きほく

～紀北支援だより～



和歌山県立紀北支援学校
教育支援部
第1号 2017. 10. 31

平成 19 年に特別支援教育がスタートし、10 年が経過しました。それまでの特殊教育の対象だけでなく、特別支援教育は、知的な遅れのない発達障害も含めて特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍するすべての学校において実施されるものとなりました。その間も、本校は地域における特別支援教育のセンターとして諸学校等と連携して参りましたが、今後はより連携を深め、センター的機能を更に充実させていくことが課題となっています。そこで、地域の各学校等と情報を共有し、連携をより深めたり、それぞれの専門性を高めたりするために、支援だよりを発行することにしました。

おたよりの名前「セルクル」はフランス語で[Le cercle]「円」「輪」という意味です。人と人がつながることで「円」を描きます。さらにつながることによって「円」がもっと大きくなります。それぞれの学校という「点」がつながって大きな「輪」になるように、連携していきたいという願いが込められています。本校の取組や専門性を、共有すべき情報として発信していければと考えています。

本校校長より



平成 19 年「特別支援教育」の法制化から 10 年を迎え、特別支援教育は第 2 ステージに入りました。その間「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」等も施行され、教育分野においても、子ども一人一人の障害の状態や教育的ニーズに基づく「合理的配慮」を提供することの重要性が示される等、「インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育」のより一層の充実が求められています。

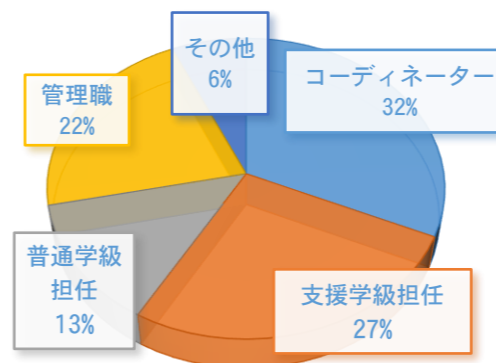
特別支援教育は、「特別な教育ではなく、特別な配慮が必要な教育」と言われており、本校には地域のセンター的機能を果たすべき使命があります。これからも、地域で学んでいる子ども達や先生方の相談等を通して、各学校で設置されている校内委員会の更なる充実のため、フットワーク、ネットワーク、チームワークをモットーに、本校が地域のセンター校となれるよう、これまで以上に教育資源の提供をさせていただきます。

教育相談に関するアンケート

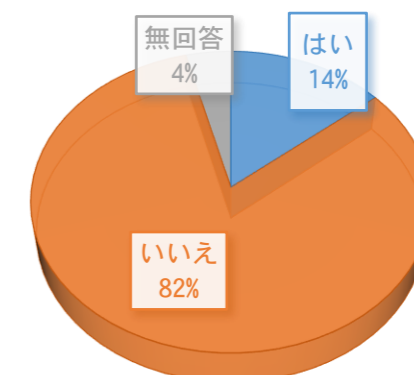
1 学期に、地域の小・中・高等学校、就学前施設を対象に、教育相談に関するアンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。右にその結果を示しています。子どもの対応で困っていることや本校に期待することに関しては、具体的なご意見をたくさんいただきました。

アンケートの結果から

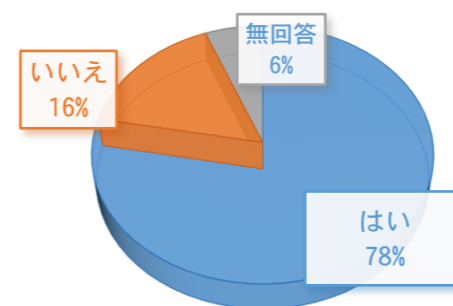
記入者の立場



教育相談を受けたことがあるか



子どもへの対応や支援で困っているか

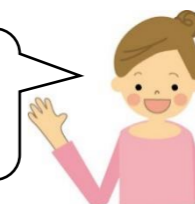


* 「教育相談を受けたことがあるか」という問いに対して「はい」が 14%、「いいえ」が 82%で教育相談を受けたことがないことが多かった。
* 「子どもへの対応や支援について困っていることがあるか」という問いに対しては「はい」が 78%、「いいえ」が 16%で困っていることが多かった。
* 困っている状況であるが、本校の教育相談にはつながっていない状況であることがわかった。

【子どもへの対応や支援について困っていること ※自由記述から抜粋】
* 個々の児童への配慮が多く、担任への負担が大きくなっている。
* 専門的知識がないため、正しい指導ができているか不安。
* 落ち着いて学習に取り組めなかったり、衝動的な行動をとる子どもがいる。
* 特性の見立てと対応方法や指導方法。
* 問題行動への対応について。
* 保護者との連携について。 など

【特別支援学校のセンター的役割として本校にどのようなことを期待するか ※左同】
* 専門的知見による具体的な手立て、指導。
* 教材・教具の紹介。
* 個別の相談に乗ってもらったり、本人を見てもらいアドバイスをいただきたい。
* 子どもの行動の要因について考えられることの分析。
* 困った時にすぐにアドバイスがもらえるシステム（電話やケース会議等）。
* 校内研修等でのアドバイス。 など

上記のことについて、教育相談の中で対応させていただけますので、お気軽にご相談ください。



紀北支援学校 教育支援部

TEL 073-479-1356

相談メール kihoku-shien@wakayama-c.ed.jp